

第3章 クロス分析

1 クロス分析とは

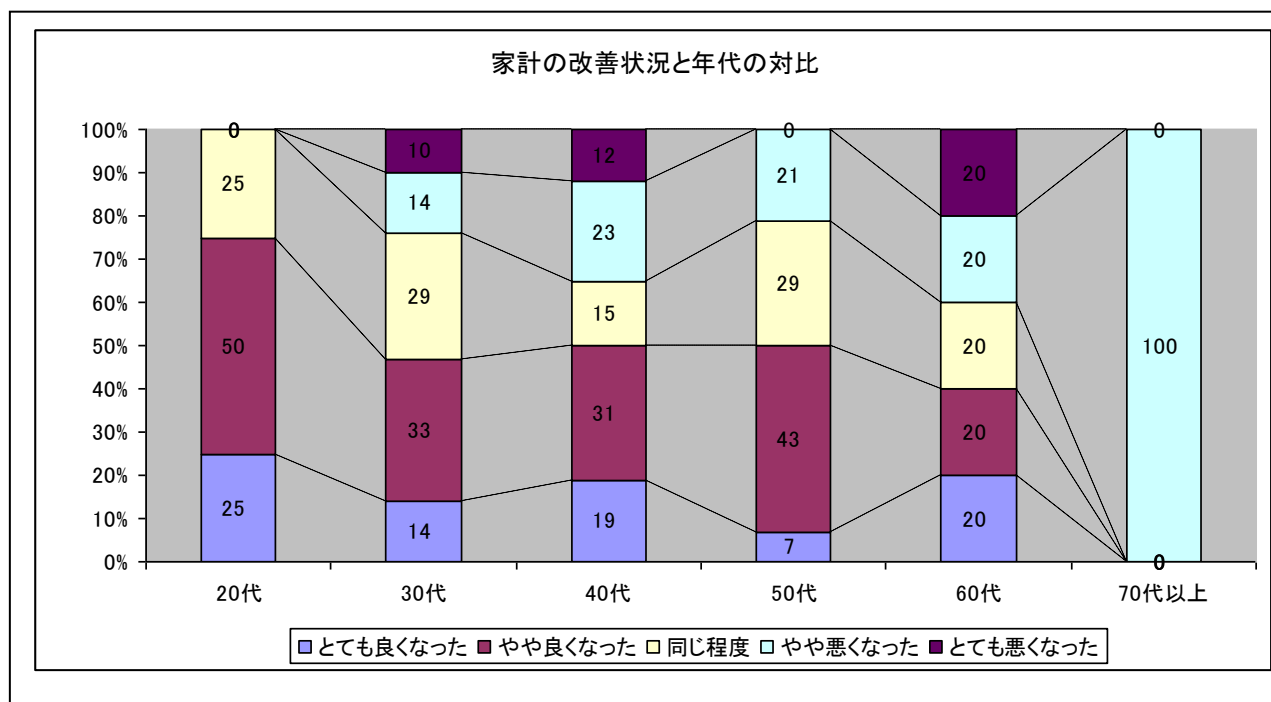
クロス分析とは、集計の2つの項目を同時にまとめた物である。つまり、単一の項目ではなく、2つの項目に注目し、単純集計では分からなかった偏りを、もう1つの項目を加えることによって、一段深い集計を行うことができるようにする分析手法である。

今回の調査では、一方の軸に「家計の改善状況」を置き、それぞれの対比項目を設定することにより、家計改善の提案を探った。

2 家計の改善状況と年代の対比

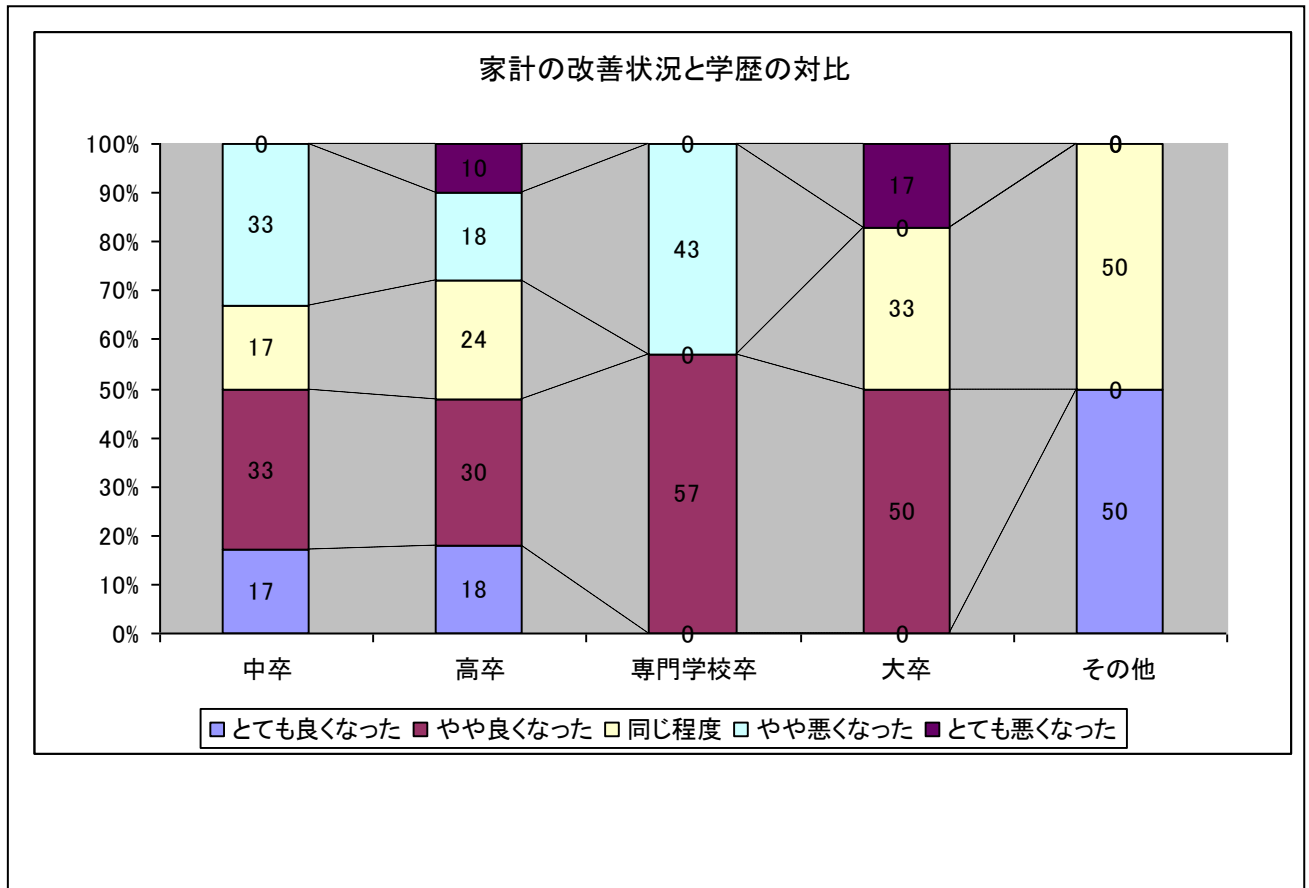
40代、50代で平均よりも若干、家計改善がすすんでいることが分かる。但し、40代では、悪くなった世帯も平均より多く、二極化がすすんでいる。

この世代は、教育費の負担の大きい年代であり、教育費が家計を圧迫していることが推測される。



3 家計の改善状況と学歴との対比

今回の調査では、改善に関しては、学歴との相関関係があるか断定できないが、中卒と専門学校卒において、家計悪化の割合が平均より高くなっている。

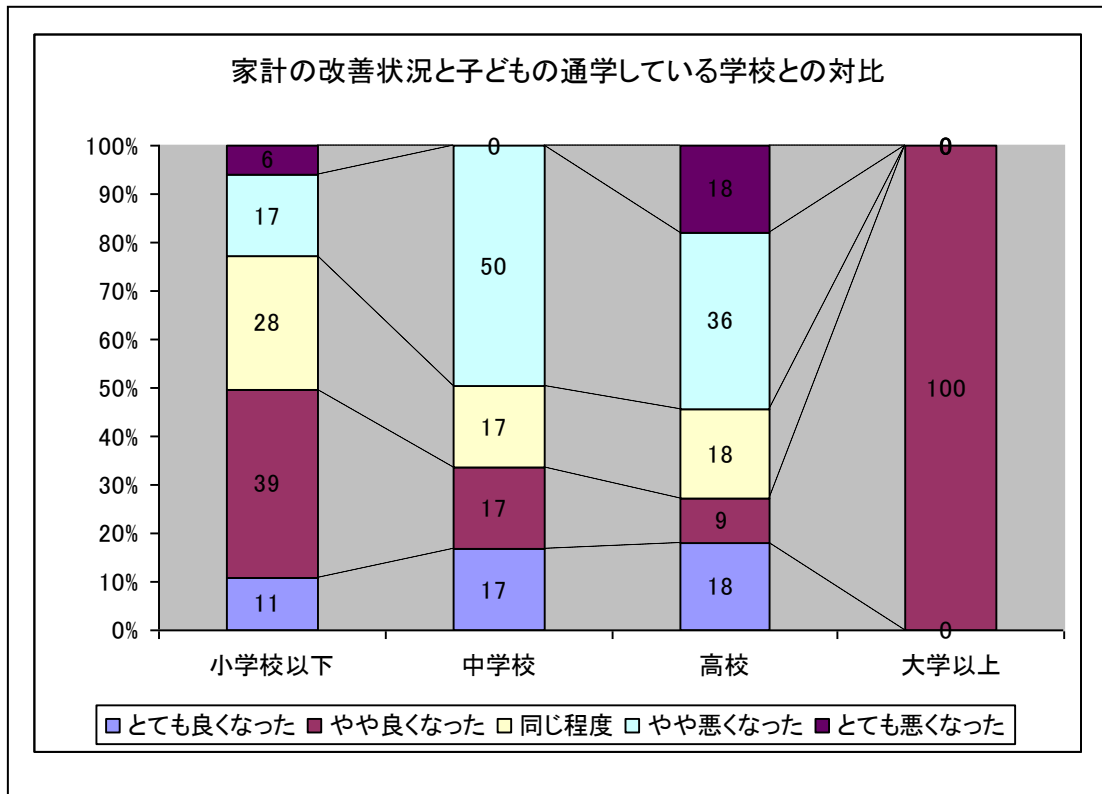


4 家計の改善状況と第1子の通学している学校との関係

第1子が小学校に通っている間は、教育費の負担もそれほど大きくなく、家計改善が大きくすすんでいる様子が見て取れる。他方、第1子が中学校、高校に通っている世帯の場合は、家計悪化の割合が平均より著しく高くなっている。

ちなみに、財団法人こども未来財団「子育て家庭の経済状況に関する調査研究（2005年度）」によると、小学校時代は年間の教育費生活費が596.5千円かかるのに対し、中学校では982.3千円、高校では1241千円もかかっている。

子供が、中学校、高校に行ってから、教育費の負担が、家計に重くのしかかっている様子、そのなかで家計を改善の方向に持っていくことが如何に難しいかが見て取れる。

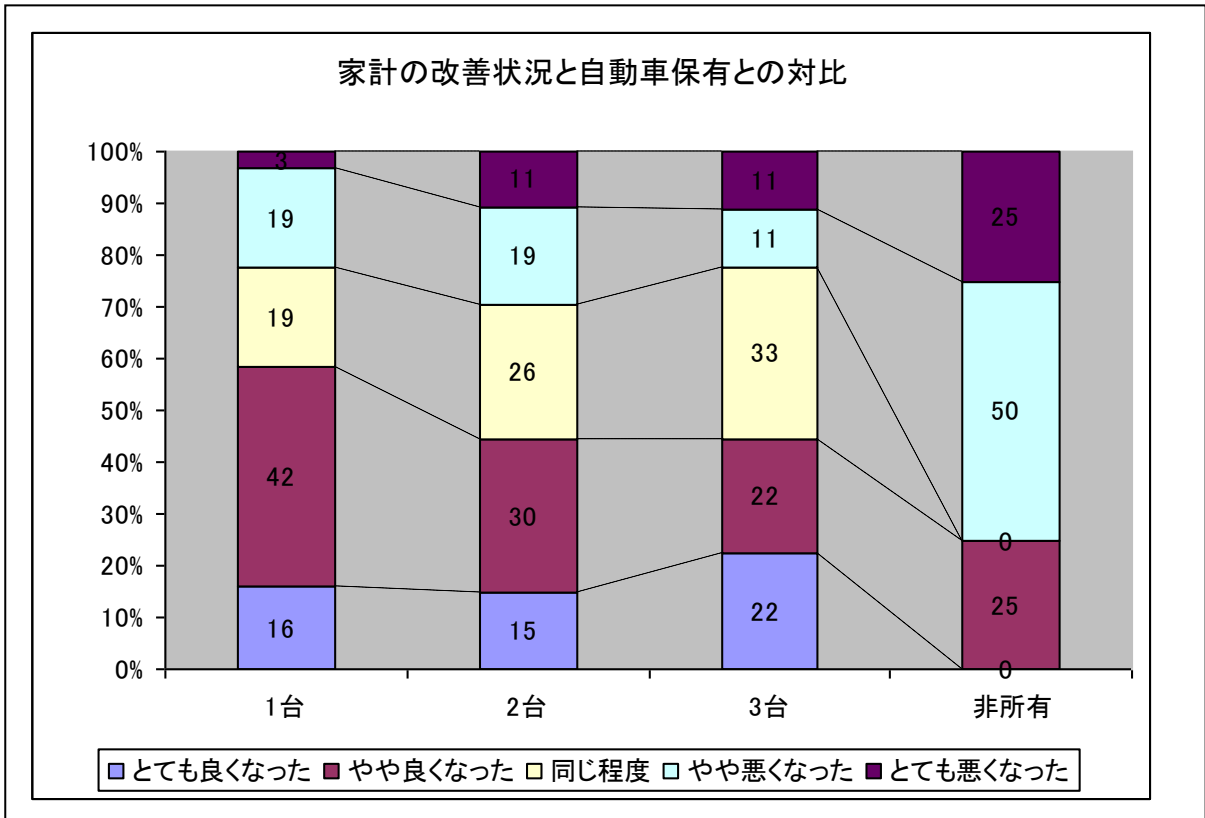


5 家計の改善状況と自動車保有台数との対比

自動車の保有台数が少ないほうが家計改善がすすんでいる状況が分かる。民間会社の試算によると、1. 5リットルから2リットルの標準的な大きさの自動車の年間の維持費（税金、ガソリン代、車検費用等）は、457千円にもなるという。これに加え、自動車ローンの負担がある場合には、毎月の自動車にかかる費用は、5万以上になることも考えられる。

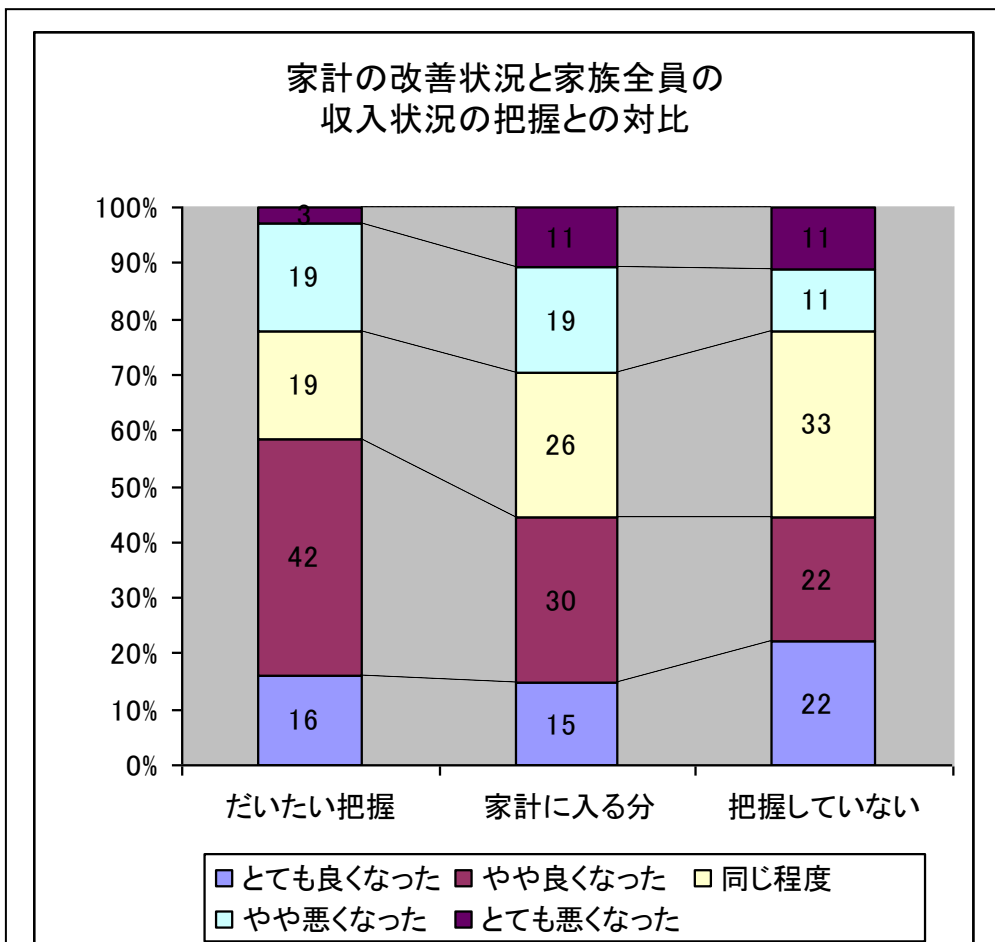
現在の経済状況で、月5万円の収入を得ることがどれだけ大変なことか、また、5万円の費用でタクシーでどれだけ走れるかを考えたら、車を維持することの合理性は相当厳しく考えないと維持するメリットがないことになる。

ここにも、家計を改善する提要有る。

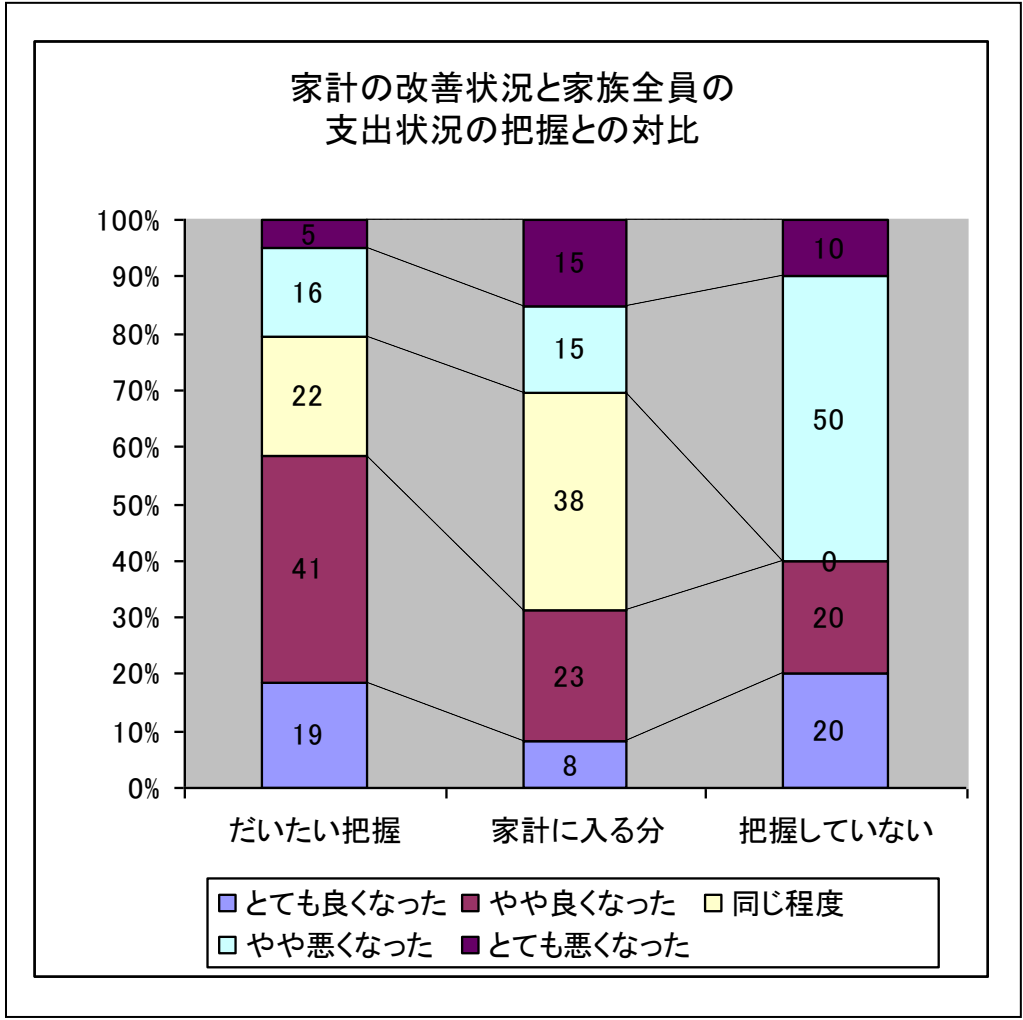


6 家計改善と家族全員の収入の把握状況との対比

収入を把握している世帯の方が、著しく家計の改善がすすんでいる状況が見て取れる。ここにも家計改善の提要有る。



6 家計改善と家族全員の支出の把握状況との対比
 収入と同様の傾向がある。



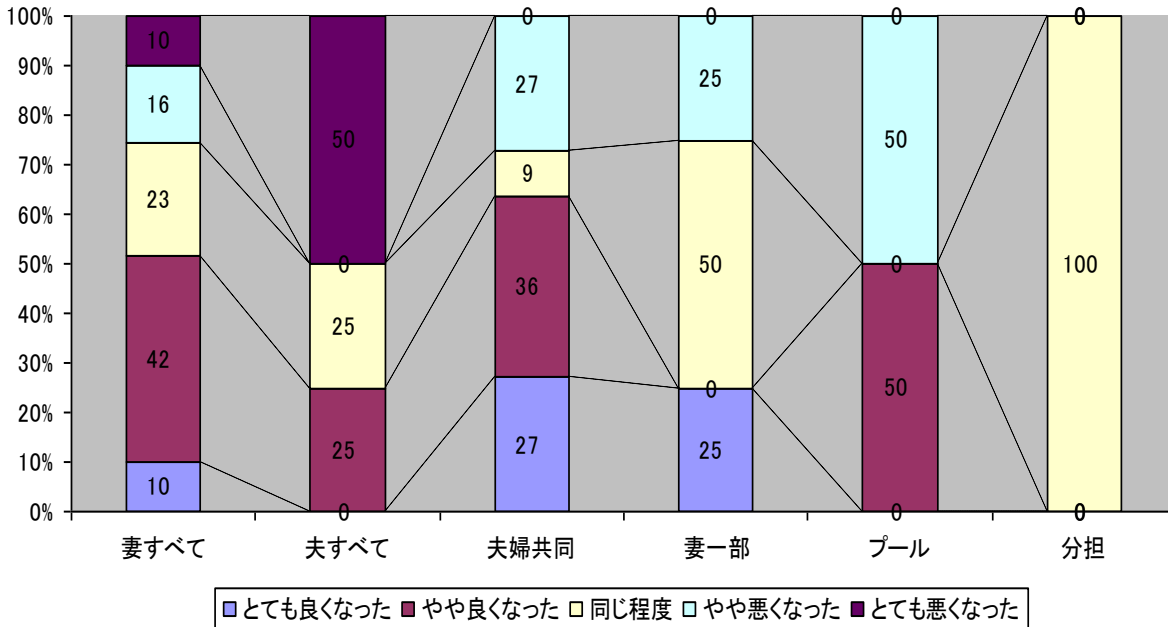
7 家計改善と家計管理のタイプとの対比

家計管理との対比で言えば、夫婦共同で家計管理するタイプにおいて、他のタイプと比べて、家計改善が著しくすすんでいる。

夫婦で協力体制を作っていく、またお互いがお互いの監査役の役割を果たす、そんな家計管理がもっとも改善に結びつくのであろうか。

ここにも家計改善の提要有る。

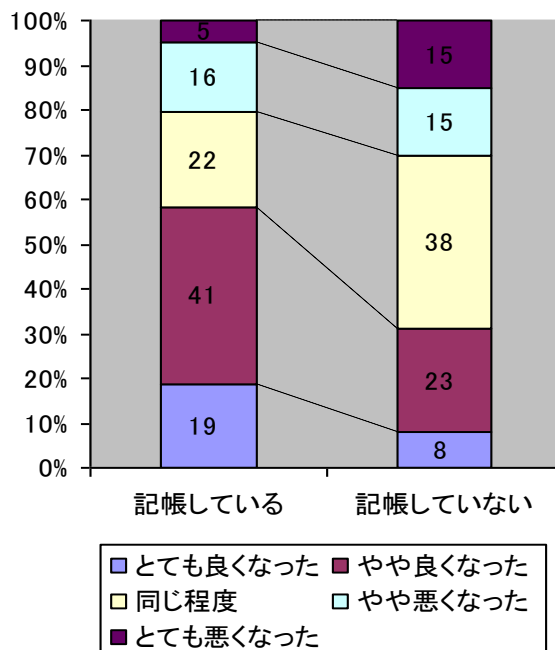
家計の改善状況と家計管理タイプとの対比



8 家計の改善と家計簿の記帳状況との対比

明らかに、家計簿記帳をしている世帯の方が家計改善がすすんでいる。また、家計の悪化に関しても、記帳している世帯の方が悪化の割合が低い。ここにも、家計改善の提要有る。

家計の改善状況と家計簿の記帳状況との対比

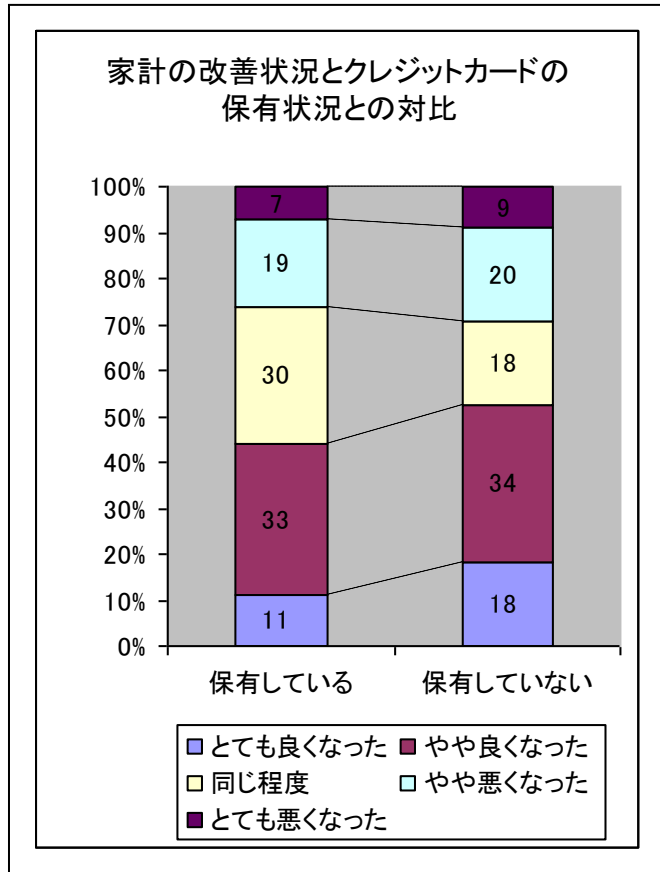


9 家計の改善状況とクレジットカードの保有状況との対比

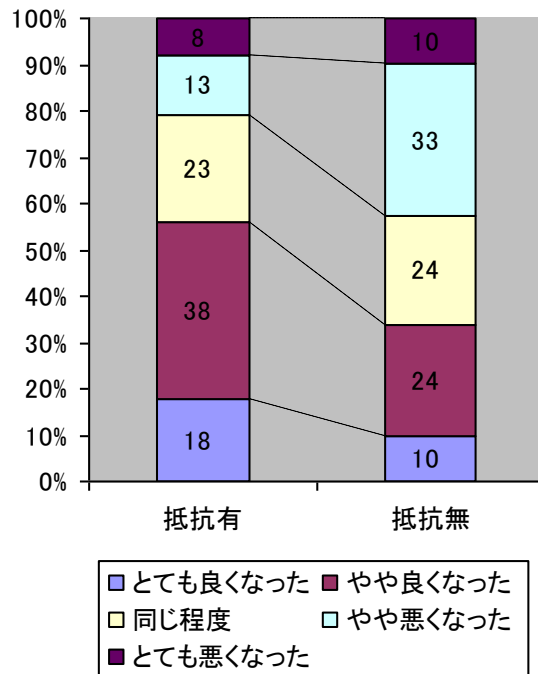
世間では、クレジットカードの賢い使い方について、かまびすしく言われている。

しかし、今回の調査では、当面、クレジットカードに頼らず、現金主義で金銭管理をするほうが家計の改善に結びついているように思われる。

これは、次のクレジットカードに対する抵抗感のクロス分析からも裏付けられるように思われる。



家計の改善状況とクレジットカードの 抵抗感との対比



10 家計の改善状況と家計の一元管理との対比

家計の一元管理をしている世帯の方が、していない世帯より約2倍家計改善がすすんでいる状況が見て取れる。

ここにも家計改善の提要有る。

